決議

永年に亘るブルジョア擁護政策の必然的破綻として今や横濱市一般經濟並に電氣局經濟は、昭和六年度豫算編成に當つて未曾有の苦難に遭遇するに至つた。然かも、聞くが如んば此の苦難を打開すべく市當局は、或は、從業員の勞働賃銀値下を計り、若しくは、再び市民の犠牲に待たんとするものゝ如くである。

此の事態を前にして、吾が全國大衆黨は、全市從業員の待遇條件低下反對、市民に對する負擔強要反對——延いては、乘車賃金片道六錢制實施要求の態度をハツキリと市當局に示し、以て市電經濟打開を無產市民の犠牲に依らざる方策に於てなすべきを要望するものである。

理由

横濱市電車經濟を苦難に陷入れてゐるものに二ツの原因をあげる事が出來る。其の一は、横濱電氣鐵道株式會社買收の爲に發行したる市債六百八拾萬圓の利子の支拂ひ、其の二は大震災復興の名に於て費やされた復舊費壹千貳百參拾萬圓及び其の他合計壹千七百萬圓である。

横濱電氣鐵道株式會社の買收

時は大正九年である。當時横濱市内電車は横濱電氣鐵道株式會社の所有であつた。政民兩派の巨頭等相寄り、それが買收の議はまとまつたのであるが、玆に不可思議な事は、同會社の實質產資は四百貳拾萬圓であつたが、それが横濱市に買收されるに及んで、六百八拾萬圓と云ふ高價に評價せられたのだ。當時の市會議員諸君が、此の貳百六拾萬圓の過大評價を平然と認めた事が、不可思議でなくて何であらう。然も、當時の市會議員中の巨頭連三宅、赤尾、土井等が今日巨萬の富を擁してゐる点と思ひ合はせて、市民の、之れ等に對する不可思議の雲は益々色こくなつて行くのだ。

斯くして六百八拾萬圓（今日未濟分六百五拾萬圓）と云ふ不當な市の借金は、年々五分五厘の